

吉田財団設立40周年記念事業

令和7年度 教材活用状況報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会
理事長 山 倉 修 一 殿

学校名	福岡県立筑後特別支援学校
学校長名	高木祐範
報告者	甲斐原るみ
寄贈品	1.液晶モニター(DMM ディスプレイスタンド付き)55型 2.液晶テレビ(ハヤミディスプレイスタンド付き)43型 3.ラッセルバナナクッション(赤S)・Tクッション(青ML)
《 振り返り 》	
教育的課題	1.ICT機器を活用して視覚的支援による教育効果を上げたい。 2.生徒数増加に伴い、ICT機器が不足している。 3.肢体不自由児が安定した姿勢で学習できる環境を整えたい。
教材活用の狙い	1.学部や学年単位で実施する授業や特別活動に活用する。 2.抽象的な事柄を視覚的に理解させ、教育効果を高める。 3.心身のリラックス、学習や摂食、排痰時等の姿勢保持
目的達成のための工夫	1.プレゼンテーションソフトで作成した教材の提示 2.作成した動画視聴やスライドの提示 3.クッションを組み合わせて使用することによる安定した姿勢の保持
《 教材活用の効果・成果 》	
活用状況及び、教育的課題の解決状況	1.視覚的なアプローチを併せることで生徒の集中力が高まった。 2.動画視聴を行うことで間接的な体験を重ねることができた。 3.安定した姿勢が保持でき、環境の把握につながった。 4.安定した姿勢を保つことで、学習に集中することができた。 5.クッションの組み合わせの工夫によりリラックスした姿勢の保持に繋がった。
対象者・利用頻度	1.高等部生徒・3回以上/週 2.中学部生徒・ほぼ毎日 3.小学部重複学級児童・ほぼ毎日
目的達成状況	1.2.3.高度に達成
教育的効果についての所見等	知的障がいをもつ本校児童生徒にとって、教育活動全般における視覚的な支援は大変有効である。1.2 は、生徒増加に伴うICT機器の不足解消につながり、教育的効果は大変向上した。また、小学部重複学級の児童の体形に合った3 は、学習時のみならず、摂食や排痰時などあらゆる教育活動において活用しており、児童のQOLの向上につながった。

活用状況の写真等(当日の様子など)



高等部 自立活動



中学部 数学



小学部 日常生活の指導

今後の活用見通し・課題

児童生徒数及び重複障がいをもつ児童生徒の増加が見込まれるため、活用機会は今後さらに増していくと思われる。クッションは、もう1つセットで販売されていたものがあり、それが揃うとさらに重複障がいをもつ児童の活用場面が増えていくことが見込まれる。